

創立 1998年6月13日



例会日 毎週木曜日

12時00分/18時30分

例会場 アメニティ江坂 内

会 長 高 尾 修 事 藤 田 芳 浩

2024-2025年度 RI テーマ

The magic of Rotary (ロータリーのマジック)

会長 ステファニー A. アーチック

2024年11月14日発行 会報第1213号

今週のプログラム

(2024年 11月14日 第1213回例会)

卓話:仕事とオフのよもやま話

担当:石田夕子会員

次週のプログラム (2024年 11月21日 第1214回例会)

会長ノミニー選出についての 最終意見交換会 指名委員会公示

第1212回例会 (2024年 11月7日)の記録

<会長の時間>

高尾 修会長

本日は、関西大学の「留学生のとの交交歓会」を開催致します。ゲストとして関西大学国際教育センター長 池田智恵(いけだ ともえ)教授様、お忙しい中、留学生との交歓会にご出席を頂き誠にありがとうございます。また関西大学から、6名の留学生の皆様のご出席を頂き、ありがとうございます。留学生の皆様との交歓会は2008年より、16年間継続して開催させて頂き楽しい時間を過ごさせて頂いております。本日ご出席の中国の留学生の皆様には中国と日本の友好の架け橋となって頂きます様心よりお願いする次第です。

後ほど、スピーチを頂きまして日本の印象や今後の進路や夢をお聞かせ下さい。

尚、本日は米山奨学生で大阪大学 人間科学部在籍のグエン カム フンさんにも、ご出席を頂いております。グエンさんはベトナム出身で、後ほどスピーチをお願い致します。

「日本一の桜」、紅葉が見ごろの青森県弘前(ひろさき)公園をご紹介いたします。

秋の恒例「弘前城菊と紅葉祭り」が開催されています。赤や黄色、茶色に色づいたサクラやカエデが 見頃を迎えています。開催は11月10日までです。

「日本一の桜」を自称する弘前公園には、ソメイヨシノ1700本の他、カエデ1100本があります。 メイン会場の植物園には、お城の北方を守り、水を象徴するという神獣(しんじゅう)「玄武」を モチーフとした「彩巡(さいじゅん)玄武」を設置してあります。

期間中の午後5時半からはプロジェクションマッピングが実施されるほか、市民菊花展や菊人形、「花輪くぐり」を楽しめます。

園内の木々は午後4時~ライトアップされ、鮮やかさが増し、中堀では午後5時まで恒例の有料観光舟の運行もあります。桜が紅葉する桜の道はカエデとはひと味違った趣があるとのことです。色鮮やかな紅葉と様々な工夫を凝らした演出を楽しんで欲しいとのことです。













<本日のゲスト>関西大学 国際教育センター 副センター長 池田 智恵様 汪 易凡様 楊 クンキツ様 郭 テイテイ様 フリ様 張 宇輝様 董 睿コウ様 米山奨学生 グエン カム フン様

<出席報告> 柳原 健治 SAA 補助

会員数17名(内出席免除会員1名)

本日の出席者数

10名

(内出席免除会員0名・名誉会員0名)

本日の出席率 62.5% <ロータリーソング> 全会員

♪国歌 君が代♪

♪ふるさと♪

<本日の演奏曲目> 近藤 美里さん

- 1. A Whole New World
- 2. You Raise Me Up
- 3. 世界に一つだけの花
- 4. Sing

<幹事報告> 藤田 芳浩 幹事

1. 地区大会事務局より名札が届きましたので、レターケースに配布致しました。 地区大会に参加される方は当日必ずご持参ください。

- 2. 大橋ガバナーより、10月28日の指名委員会でガバナーノミニー・デジグネート (2027-28 年度ガバナー候補者) として大阪平野 RC 吉村 昭 (よしむら あきら) 会員が 指名された旨、通知がありました。
- 3. 本日、池田 智恵先生から頂きましたクッキーをテーブルに配りましたので 皆様、食後にお召し上がりください。

<SAA報告>

柳原 健治 SAA 補助

※ニコニコ奉仕金

高尾会員

関西大学 池田 智恵教授様 本日は、よろしくお願い致します。

※ラオス基金

水島会員

池田様、本日はありがとうございます。

※ロータリー財団

高尾会員

関西大学留学生の皆様、スピーチよろしくお願いします。

小山会員・相原会員 コメントなし

※米山記念奨学会

水本会員 留学生の皆様 ようこそ!!

藤田会員 グエンさんようこそ!!本日スピーチ宜しくお願いします。

柳原会員 朋友 RC 出席してきました。 石田会員・小山会員・相原会員 コメントなし

※メイプル基金

藤田会員 関西大学 国際部 池田様 留学生の皆様ようこそ!!

本日宜しくお願いします!!

柳原会員関西大学の皆様、ご出席ありがとうございます。

岸上会員・小山会員 コメントなし

《石田夕子 国際交流委員長よりご挨拶》

皆様、こんばんは。国際交流委員長の石田でございます。

本日は関西大学からの留学生の皆様をお迎えし、アジア、特に中国やベトナムといった地域の文化、価値観を直接学び合える貴重な機会に心から感謝いたします。昨晩のアメリカ大統領トランプ氏再選により、異文化への関心も一層高まる中、今後のアジアの将来を担う若い学生の皆様と、ビジネスとは離れた場所での交流はとても有意義だと感じます。個人的には、私はアジア特に中国との貿易を 20 年以上経験しているのですが、担当者との理解を深めるため、仕事以外の雑談の中で、おいしかった食事や家族、旅先でペットや散歩道での写真を交換したりなど、ちょっとした互いの日常の文化を知ることで、とても身近になれたりします。また、中国の方は赤色と黄色がお好きだとお聞きしたり、いろいろと特徴的な国民性がありますね。アジアの中で、日本、中国、ベトナムは異なる歴史や文化を持ちながらも、多くの共通点もありますし、コロナ禍もすっかり明け、交通手段も便利さを加速し、大阪では万博も控えており、アジアの交流はビジネスでも観光でも今後ますます密な関係になっていくものと思われます。その中でこの場におられる有能な留学

本日は、留学生の皆さんが母国からどのような文化や習慣を持ってきてくださったのか、また日本で感じたことを伺えるのを大変楽しみにしています。本日の交流が、参加者の皆様にとって実りあるものとなり、国際的な友好関係を築く一助となることを願っております。

生の皆様が、素晴らしい未来を創っていかれることは間違いないと思っています。

本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。







《スピーチテーマ》

- ●日本の文化や習慣でここがちょっと不思議?
- ●自国の文化で知ってほしいこと
- ●日本と自国にとって共通に理解しておいた方が良いと思うこと

◆関西大学 外国語教育学研究科2年生 郭 テイテイ

ロータリークラブの皆様、こんにちは。関西大学大学院外国語教育学研究科 2 年の郭テイテイと申します。本日のスピーチでは、特に日本と中国の食文化についてお話ししたいと思います。

日本には、「並盛りでも大盛りでも特盛でも全て同じ料金」という店があります。

私も、かつては「同じ料金で特盛が食べられるなら、特盛以外を頼むと損をしてしまう」と明らかにキャパシティを超えた量を頼み、涙目になりながら食べていたことがあります。なぜなら、一緒に行った友人に「残したらだめだよ」と言われたからです。では、なぜ食べ物を残してはいけないのでしょうか。日本では、出された料理を残さずに食べることで、料理を作ってくれた人や食材への感謝の気持ちを表します。中国では、料理を少しだけ残すのが一般的です。きれいに食べてしまった場合、「おかずが足りなかった」という意味に捉えられてしまいます。

料理といえば、今日は私の自慢の「中国の食文化」について紹介したいと思います。中華料理といえば、タンタンメン・チャーハン・麻婆豆腐など、名前を聞いただけでおなかがすいてきそうな、美味しい料理がたくさんあります。中国は国土が広いので、地域によって食べ物の味も違います。その特徴は、東西南北の4つに分けられます。

東の上海料理には、魚類を豊富に使った料理がたくさんあり、味付けはどちらかというと薄味です。名物料理は上海ガニです。西の四川料理は辛さが特徴です。四川は内陸にある地域で、夏は蒸し暑く、冬は寒さが厳しいため、食欲を増進するスパイシーな料理が生まれました。麻婆豆腐やタンタンメンなど、ピリッと辛い料理が有名です。南の広東料理はあっさりとした味が特徴で、シューマイやワンタンメンが有名です。北の北京料理は、寒いので濃い味付けが特徴です。都市の名前が付いた北京ダックや、ジャージャー麺がよく知られています。

6年間の日本での生活を通して、中国と日本の食文化の違いを実感しました。日本と中国がどちらも大事にするべきことは、お互いの文化の違いを理解し、尊重する心を持つことだと思います。

◆関西大学 東アジア文化研究科 1 年生 張 宇輝

こんにちは、関西大学に留学している張宇輝と申します。本日は、私が日本で感じたことや中国の 文化についてお話しさせていただきます。

まず、日本の文化や習慣で「ちょっと不思議だな」と感じたことについてお話しします。それは、プライバシー保護に対する意識の高さです。日本では日常生活の中で他人のプライバシーを守るための気遣いがとても感じられます。例えば、学校のホームページやイベントの写真で子供たちの顔にぼかしを入れたり、名前が特定されないように工夫されています。また、カフェなどの公共の場所でも席に仕切りが多く設置されており、周囲の視線を気にせずにリラックスできる環境が整っています。こうした配慮は、中国ではあまり見られないもので、「どうしてここまで気を使うのだろう?」と初めは驚きましたが、日本ならではの他人を尊重する文化から学ぶことが多いと感じています。

次に、私の出身国である中国の文化について知っていただきたいことをお話しします。それは中国の少数民族である「モンゴル族」の文化です。モンゴル族は広大な草原で遊牧生活をしてきた民族で、その独特な音楽や舞踊が特徴です。特に「馬頭琴」という楽器を使った音楽は、馬のいななきや草原の風の音を思わせ、自然との調和を感じさせます。また、踊りも自由でダイナミックで、広々とした草原を表現しているようです。モンゴル族の文化は中国国内でも大切にされていて、自然と共に生きる大切さを改めて思い出させてくれるものです。皆さんにも、ぜひ一度、その文化に触れていただきたいと思います。

最後に、日本と中国が共通して抱える課題についてお話しします。それは、少子高齢化の問題です。日本は長年この問題に取り組んでおり、子育て支援や高齢者の雇用延長などの政策が進められています。一方で、中国でも人口減少に対する対策が進んでおり、三人っ子政策などを導入しています。少子高齢化は両国にとって未来の発展に欠かせない課題であり、互いに学び合い、より良い未来を築くために協力できる分野だと思います。このように、私たちの文化には違いがありながらも、多くの共通点もあります。お互いの文化や価値観を理解し、尊重することで、より深い信頼関係が築けると信じています。これからも、皆さまと共に文化交流を深め、より良い関係を築いていければと思います。ご清聴ありがとうございました。

◆関西大学 東アジア文化研究科1年生 フリ

関西大学大学院東アジア文化研究科1年のフリと申します。

日本に来てから、不思議だと思ったことの一つは、日本の行列文化です。レストランやカフェ、人気な観光スポットなど、様々な場所で行列が見られます。特に週末や祝日になると、長い行列で何時間も並んでいる光景がよく見られます。母国では、食事のために長く待っていることはあまり考えられません。もし長い列ができているなら、ほとんどの人は別の店を探します。日本人にとって、「並ぶこと」には特別な意味があるのではないかと感じました。またこのような行列文化を見て、日本人の順位を守る意識の高さに感銘を受けました。

自国の文化で知って欲しいことといえば、中国は多くの民族で構成されている国であり、それぞれの民族には独自の風俗習慣があります。ここでは私の民族であるモンゴル族の習慣についてお話しします。モンゴル族には多くの伝統的な習慣があります。例えば、朝に煮たミルクティーは、すぐには飲まず、まず天に捧げるという習慣があります。これは信仰、天を敬うという宗教的な意味があります。また、妊婦の前を通ることを避け、必ず後ろを通る必要があります。これは妊娠している女性に対する敬意や安全を考慮したものだと思います。最後に挙げたいのは、モンゴル族が他人の靴やかかとをうっかり踏んでしまった場合、握手をして謝意を表します。これにより、争いを避け、モンゴル族の親切で親しみやすい心を示すことができると思います。

日本と自国にとって共通に理解しておいた方が良いと思うことは違いを認めることです。お互いに違う文化が存在することを認め、理解することが大切だと考えています。違う国の人と交流するときに、固定観念に囚われず、相手を一人の人間として認めることを意識します。相互理解をし、相互に尊重しあい、偏見をもたず、友好的に接するように努めることが重要だと思います。

◆大阪大学 人間科学部 英語学科 4 年生 グエン カム フン

みなさんこんにちは。私は大阪大学人間科学部英語学科 4 年生のグエン・カム・フンです。これまで海外に行ったことのないベトナム人女性として、日本での 2 年間でさまざまな文化や異文化での生活について多くのことを学びました。初めて日本に来たときは、奇妙に思える新しいことがたくさんありました。

例えば、特に電車に乗っているときはみんなとても静かで、友達と話すたびにとても恥ずかしく感じます。また、人々は列に並ぶのが好きなようです。列がどれだけ長くても、待ち時間がどれだけ長くても、人々はそれでも辛抱強く順番を待ちます。混雑した電車でも、他の人を押しのけて道を空けるのではなく、辛抱強く降りるのを待ちます。日本の文化について理解が深まるにつれて、これらすべての習慣は自己規律、協力、そして自分自身と他人への敬意の表れであることがわかりました。しかし、ベトナムに戻るたびに雰囲気が大きく変わります。私たちベトナム人は非常に友好的で社交的です。人は、知り合いかどうかに関わらず、人と話すのが大好きです。私は日本では公共交通機関で知らない人に話しかけることは決してなく、話すことは失礼とさえ考えられていますが、ベトナムに帰る飛行機に座った瞬間、隣に座っていた女性が帰りのフライト中ずっと私に話しかけてきました。その時、私は本当に家に帰ったのだと実感しました。

ベトナムは54の異なる民族、つまり異なる文化を持つ多様性のある国ですが、他の人とコミュニケーションをとる時の親しみやすさや笑顔は間違いなく同じです。この多様性は私が誇りに思うものです。私達はさまざまな種類の食材やさまざまな調理法で作られたおいしい料理を持っています。ベトナム人である私でさえ、新しいベトナム人の友達に会うたびに新しい料理について学びます。麺料理だけでも約20種類あります。そのため、私は日本料理が大好きですが、ベトナム料理がとても恋しくなることがあります。

ベトナムと日本の文化には多くの共通点があります。私達は皆、協力とグループを重んじ個人よりも優先します。このように文化的な違いはありますが、最終目標が多くの人の利益の為であると理解すれば、この習慣にすぐに従う事ができます。日本への留学は他人や社会をもっと気遣う方法について、異なる価値観を学ぶのに役立ちました。これからももっと学び、より良い人間になりたいです!よろしくお願い致します!

◆関西大学 総合情報学研究科1年生 董 睿コウ

皆さん初めまして、こんにちは!DONG RUIHAOと申します。私は、麻婆豆腐などの四川料理やパンダで有名な中国の四川省で生まれました。本日は貴財団の例会にご招待していただき誠にありがとうございます。スピーチの時間も頂いて、大変光栄に思います。どうぞよろしくお願いいたします。

- 1. 日本の文化や習慣について少し不思議に思うことは、高校生がアルバイトをすることです。中国では、家族が子供に全力で学業に専念することを望むのが一般的で、アルバイトをすると勉強に集中できず、成績にも悪影響を与えると考えられています。しかし、日本ではアルバイトをする高校生は少なくないです。実際、日本人の友人の中には、高校時代にアルバイトで貯めたお金で東南アジアにバックバックしに行った人もいます。このような話を聞いて、中国と日本の教育や自主性の育て方の違いに驚きを感じました。
- 2. 中国の文化について皆さんに紹介したいことは四川省の省都である成都市にある都江堰(とこうえん)です。都江堰は、約2200年前に建設された古代の水利施設で、世界遺産にも登録されています。岷江(びんこう)という川の氾濫を制御し、水量を自然の力でコントロールする設計で、四川平原は「天府の国」と称される肥沃な農地となりました。後世の水利工学にも大きな影響を与え、今も稼働している稀有な例です。都江堰は、単なる歴史的遺産ではなく、生活や自然と調和するシンボルです。毎年、清明節には「放水祭」というイベントが開催され、地元の人々や観光客が集まり、長い歴史の中で受け継がれてきた知恵や文化を祝います。

3. 日本と中国にとって共通に理解しておいた方が良いと私が考えていることは、若い世代同士の交流を増やすことの重要性です。日本に留学する前、一部の親戚から反対を受けました。彼らは過去の歴史の問題で、日本に留学するべきではないと考えていたのです。しかし、実際に日本に来て、日本の人々の優しさや親しみやすさを感じ、充実した楽しい留学生活を送っています。他の人に留学生活について聞かれると、私が実感していることを伝えています。同じように、日本の若者にも中国に旅行や留学を経験して欲しいです。きっと中国の文化を感じることができると思います。こうした交流が、将来の両国の協力や発展を促進できると考えています。

◆関西大学 文学研究科2年生 楊 クンキツ

ロータリークラブの皆様、こんにちは。関西大学大学院文学研究科1年の楊珺屹と申します。

1. 日本の文化や習慣でここがちょっと不思議?

日本に留学して 5 年が過ぎました。私は中国内陸部にある湖南省の山村で生まれ育ちました。少数 民族である山岳民族の瑶族の出身です。両親は畑を耕し鶏や鴨を飼い、おやつは自然に生えているサクランボ、ビワや桃などをちぎって食べていました。ですから、来日して様々なカルチャーショックを 受けました。これまで京都の紅葉狩りや白浜の温泉、敦賀でカニを食べたり、熊本や出雲、地理学の 研究では沖縄に 12 回以上行っており、日本各地の様々な文化や交流を体験しています。その中でもっ とも印象に残っていることは、日本人そのものです。日本人の先生と学生や友人同士が多くを語らな くても通じ合い、相手が何を思っているかがわかることです。

日本人は人のことを考える精神がとても強いと感じました。どうして日本人はこんなにお互いの気 持ちがわかるのかいつも不思議に思っています。

2. 自国の文化で知って欲しいこと。

中国には儒教の影響を受けて、「孝(こう)」の精神があります。「親孝行」の意味があり、両親や年長者に敬意を払い、家族の絆を大切にする考え方で、中国文化の根幹です。古代から「親孝行は最大の徳」とされ、家族を支えることが社会の安定につながると考えられています。

親を敬い、家族のために行動する中国人は非常に多いです。共働きが一般的な中国では、子どもの世話を祖父母がすることもよくあります。親同士が公園で子供の履歴書を持ち寄って結婚相手を探してくるという婚活エピソードも中国ならではかもしれません。

3. 日本と自国にとって共通に理解しておいた方が良いと思う事。

「汝(なんじ)の隣人を愛せよ」という言葉は「自身を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」という意味があり、日本と中国間の相互理解を深める共通の基盤になると思います。日本には「察しの文化」があり、言葉にしなくても気持ちを理解しようとすることは、隣人を自身と同じように大切にする文化だと思います。

同様に、中国の儒教には「仁」という思想があり、これには「他者に対する慈愛や思いやり」という 意味が含まれます。「仁」は、他人を自身と同様に大切にし、尊重することです。家族だけでなく、社 会や隣人も同じです。

都市化が進み、個人主義的な傾向が強くなっていますが、日本と中国が持つ「隣人を愛する」価値観は、とても重要な意味があり、隣人を自身と同じように大切にする姿勢が不可欠です。簡単なことのようで、案外、難しいかもしれませんが、実現することをめざしたいです。

◆関西大学 人間健康研究科 汪 易凡

ロータリークラブの皆さま、こんにちは。関西大学大学院人間健康学科1年の汪易凡と申します。 本日は、日本と中国の文化や習慣について、私が感じた「不思議なところ」と「共通点」についてお話しさせていただきます。

まず、日本の仏教文化で驚いた点を紹介します。私は中国では「僧侶は肉を食べない」「僧侶は独身である」という考えが一般的だと思っていました。仏教の戒律により、僧侶は肉食を避け、欲望を断つことが求められます。しかし、日本に来て驚いたのは、多くのお坊さんが肉を食べたり、家庭を持ちながら仏教活動を行っていることでした。この習慣は明治時代以降に政府によって許可されたものであり、日本独自の仏教文化が形成された結果です。仏教が日本の風土に合わせて柔軟に変化したことが、私にとって非常に興味深い発見でした。

次に、中国の文化で皆さんに知ってほしいものとして「臘八粥(ろうはちがゆ)」という伝統行事をご紹介します。ちなみに日本のお寺ではこれを「紅糟(うんぞう)粥」とも呼びます。この粥は中国の旧暦 12 月 8 日に食べるもので、釈迦が悟りを開いた日とされる「臘八会」に家族で作ります。臘八粥には米や豆類、ナツメ、栗など多様な食材が入っており、栄養豊富で寒い冬を乗り越えるためのエネルギー源ともなります。この日、家族や友人と粥を分け合って食べることで、家族の絆を深め、祖先への感謝を示す習慣です。このような行事を通して家族や伝統を重んじる文化が大切にされています。最後に、日本と中国に共通して理解しておくべきことについてお話しします。それは「相互理解と尊重」の大切さです。日本と中国は仏教や家族文化など多くの共通点を持ちつつも、生活習慣や宗教観に違いがあります。お坊さんの生活スタイルや、臘八粥のような行事もその一例です。こうした違いを理解し、互いの文化を尊重することが、両国の良好な関係づくりに重要であり、お互いの文化を知ることでより深い友情が生まれると信じています。

ご清聴ありがとうございました。





















《総括のご感想》

関西大学 国際教育センター 副センター長 池田 智恵様

みなさま、こんばんは。関西大学国際教育センター副センター長の池田と申します。本日はこの場に参加できたこと、心より光栄に思います。七名の中国からベトナムからの留学生のみなさんの素晴らしい日本語のスピーチを聞いて、感動しました。日本と東アジアの国々との結びつきがますます密接になっていることを感じます。

この数ヶ月、中国の蘇州や深圳で起きた陰惨な事件、もしくは外国籍の人が関わっている日本での犯罪報道、これはいずれもとても悲惨なことですが、それをめぐるテレビ報道とそれによって引き起こされる極端なインターネットでの反応を見て、わたしはとても留学生たちが心配でした。

なぜなら、「○○人は……」と批判的な言論に日本で直面してしまうのは、日本にたくさんいる 留学生や移民して働いている人たちだからです。今、お聞きのように、ここにいる留学生の みんなは夢に向かって毎日真面目に学業に励み、頑張っています。

そして将来日本で発展していきたいとすら考えています。

本日、ここでロータリークラブの皆さまと留学生のみんなの交流を目の前にして、わたしはそういう心配がすっと軽くなりました。こうして留学生のひとりひとりに興味を持って交流してくださっている皆様がいるとわかって心が温かくなりました。

ロータリークラブの皆様がこういう会をずっと持たれているというのも、本当に素晴らしい ことだと思います。

わたしもかつて中国に留学していたことがありますが、その時はこのような機会には恵まれませんでした。ロータリークラブの皆様とのこうした交流を持つことができる機会をくださったこと、留学生にとっては本当に貴重な経験となったと思います。

心より御礼を申し上げます。本日は本当にありがとうございました。

